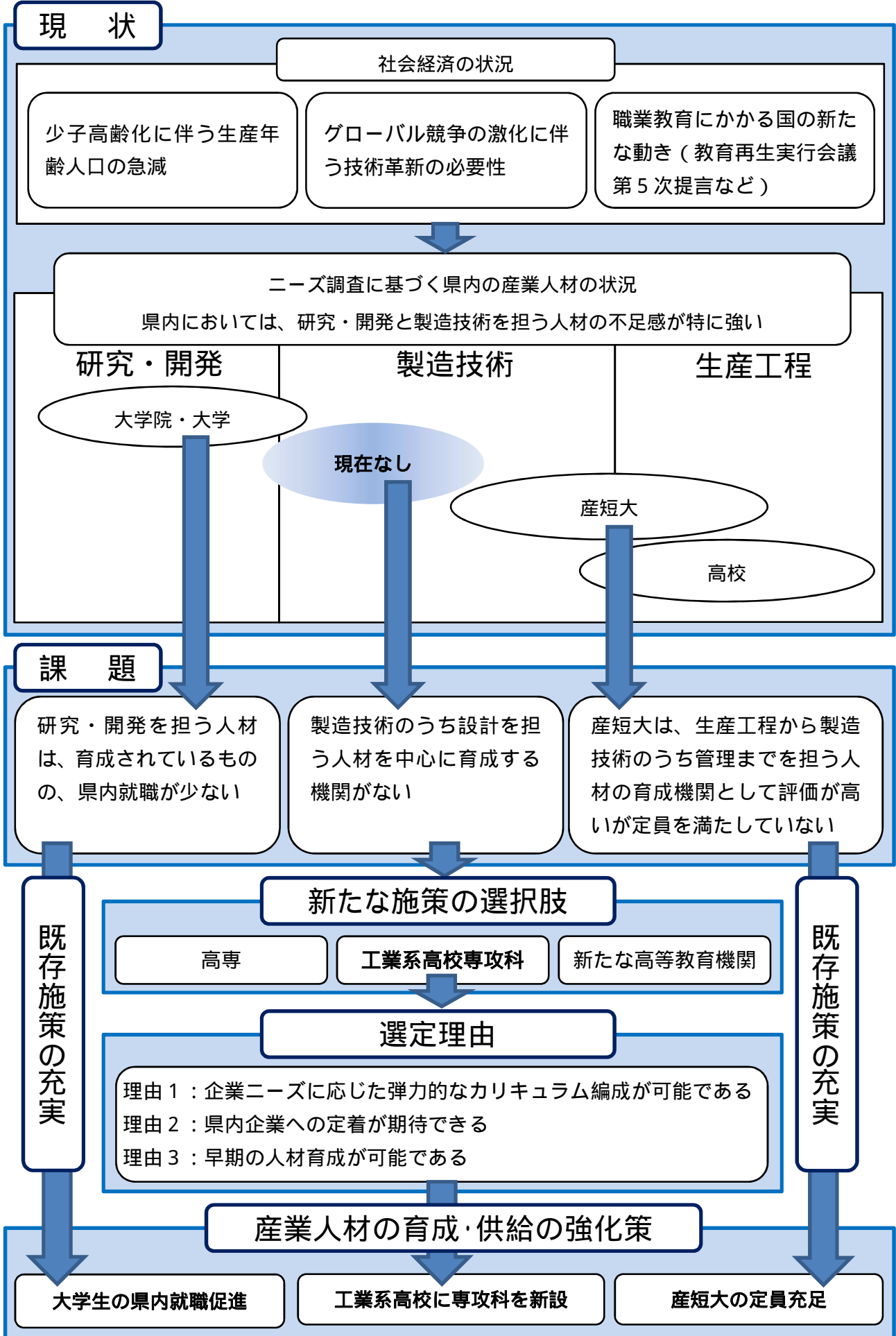


# 検討委員会における産業人材の育成・供給の強化策検討経過



工業系高校専攻科...高校卒業後、さらに2年間、より高度な専門教育を実施する制度

## 新たな施策の比較

項目	高 専	工業系高校専攻科	新たな高等教育機関
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校卒業後、5年一貫で理論だけではなく実験と実習に重点を置き、さらに、インターンシップや工場見学など、企業等での就業体験を行う等の特徴的な教育の実施により、即戦力となる人材の育成が期待できる。</li> <li>・企業に対するアンケートで、高専卒業生に対し7割以上が満足と回答している。(H27.5.27 高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議資料より)</li> <li>・高専に設置された専攻科への進学や大学への編入により、より高い教育への進路も選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校本科3年に続いて、専攻科で2年間の教育を行う5年一貫教育で、課題研究や生産管理等に関するカリキュラムやデュアルシステム(教育と職業訓練を同時に進めるシステム)により、県内企業の実態に合った即戦力となる人材の育成が期待できる。</li> <li>・他県の先進事例では、県内の企業との間で、実習等の連携、卒業時の待遇などについて協定を結び、高い県内就職率を達成している。</li> <li>・一定の基準を満たす教育内容とすることで、大学へ編入できることとなったので、生徒にとって将来への選択肢が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、どのような人材の養成強化を図るかが中教審に設置された特別部会で、「どんな状況の変化にも対応しうる汎用的な知識・技能・態度を備えることを基本として、専門的かつ高度な職業能力を有しつつ、国際的に通用する人材や、新たな技術や技能を素早く修得して、変化に対応し続けることができる人材が産業界をはじめとする社会から求められて」という視点で検討されている。</li> </ul>
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムについては、理工系大学の履修科目と同様の科目(機械力学、熱力学、材料力学、制御工学等)が多く、製造技術から研究・開発まで幅広い職種を担うことが可能である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムについては、別段の規制がないため、<u>県内企業のニーズに応えた自由な編成が可能</u>である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、検討中のため不明である。</li> </ul>
県内定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業者に占める、就職者の割合は約6割、就職者に占める<u>県内就職率は約3割</u>程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業者は、<u>ほぼ全員が県内就職</u>している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内定着率は、不明である。</li> </ul>
スピード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材輩出までの期間は、<u>最短で9年</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材輩出までの期間は、<u>最短で6年</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材輩出までの期間は、未定。</li> </ul>